

【板柳町】 校務DX計画

1. 「校務DX チェックリスト自己点検結果」における課題等について

「GIGAスクール構想の下での校務DXチェックリストの自己点検結果」（文部科学省令和5年実施）の自治体別達成状況では、学校設置者向けの点数が55点（青森県平均158.8点）、学校向けの点数が109.2点（青森県平均263.2点）と青森県平均を大きく下回っている結果となっている。

主な原因としては、校務支援システムの未導入や学校との連絡がメールや紙媒体でのやり取りが多く、学校及び教育委員会間、教員・保護者間の連絡のデジタル化が進んでいないことが主な要因として考えられる。

このため、業務の円滑化・効率化の観点から、「GIGAスクール構想下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえつつ、各種デジタル化及びペーパーレス化を積極的に進めていく必要がある。

2. 校務のデジタル化

令和6年度から勤怠管理システムの導入、メールに代わるアプリでの保護者連絡システムの導入により、校務のデジタル化、配布資料のペーパーレス化が進められ、業務の効率化が図られている。また、これまで教育委員会や関係団体から紙媒体で配布していた各種通知等は教育委員会が保護者へ保護者連絡システムで直接配信することで、教職員の負担軽減にも繋がっている。

今後も、学校における校務の負担軽減を図り、教職員の長時間労働を削減することで、児童生徒と直接関わる時間や授業準備等、授業の質を向上させるための時間を確保し、教職員の働き方改革を進めるとともに、学校全体の指導力の向上につなげるため、クラウドツールの活用を前提とした校務DXを積極的に推進する。

3. FAX・押印の原則廃止

令和5年12月に文部科学省が公表した「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検結果の報告によると、ほとんどの学校でまだ保護者・外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類があり、クラウド環境を活用した校務DXを大きく阻害していることが指摘されていることから、災害や教育ネットワークの不具合時などFAXの方が電子メール等より効率的な場合を除き、FAX・押印については令和6年度から原則廃止としている。

また、各種関係機関及び学校と関わりのある事業者に対しても、教育委員会から慣行の見直しを依頼するなど、継続的に働きかけを行う。

4. 次世代校務支援システムの導入

令和6年度から中学校についてはクラウドの校務支援システムを導入し、これまでサーバーで管理していたデータをクラウド化により、情報等の手入力作業について他のシステムやソフトウェアの連携を進め、不必要な作業の削減が図られ業務効率化に繋がっている。

小学校については、4つの小学校を1つに統合する計画があることから、管内市町村と同一仕様の次世代型校務支援システムの導入を統合時期に合わせて進めていく。

なお、現状においては、教職員のICT活用能力に個人差があり、上手く活用できていないケースも散見されることから、全ての教職員が効果的に活用できるよう、教職員一人一人のICT研修の実施回数を増やすなどの対応についても、学校やICT支援員（GIGAスクールサポーター）等と連携を図りながら合わせて検討する。